１月のイベント食
バスで巡る絶景グルメ旅

１月２６日は東京編で【深川めし】【ちゃんこ鍋（風）】【きんぴらごぼう】【芋ようかん】でした。

江戸時代の東京は、今と違って海を身近に感じながら生活されていたようですね。柳川めしは潮の香りと貝の風味がうまくご飯に染み入り、一品だけでも成り立つ料理でした。今回、写真では分かり辛いですが、わっぱ（風）の器に盛って雰囲気を出してもらいました。いかがでしたでしょうか。

↓お一人ずつ、その方に合った食形態で提供しています↓

スマイルホリデー 2023

東京

TOKYO

監修：
株式会社はとバス

'24年1月

東京の絶景：東京スカイツリー

東京の伝統工芸
江戸切子

独特な切り込みや光の反射で輝きを増す江戸切子は、江戸時代後期に大伝馬町（現：日本橋）のビードロ問屋、加賀谷久兵衛がガラス製品に金剛砂を使って彫刻を施したことがはじまりとされています。明治時代には、政府の殖産興業政策の一環としてガラス製品技術の促進が図られました。昭和60年、東京都伝統工芸品に指定され、その伝統は今日まで受け継がれています。

東京ゆかりのうまいもん

深川飯

江戸時代、現在の東京湾には多くの干潟があり、深川は多くの貝類の他、江戸前の魚介類や海苔を捕る漁師町として栄えていました。
栄養価が高く、忙しい漁の合間に手早く作ることができる深川飯が漁師飯として定着し、のちに一般家庭でも食べられるようになりました。
現在は、「ぶっかけ」と「炊き込み」の2種類あります。

芋ようかん

明治時代、高価な練りようかんの代わりに芋問屋と菓子職人が一緒に作り出した和菓子。
売り物にならない「くず芋」を捨てるのが惜しいという芋問屋の発想から、手近な食材のさつまいもを用いた安価で手に入りやすい芋ようかんの登場は、庶民に大変歓迎されました。

メニューのポイント

江戸から伝わる「深川飯」と、
両国定番「ちゃんこ鍋」を
組み合わせました。
初詣と東京都の味を堪能し、
新年スタートから楽しんでいきましょう！

東日本支社イベント担当

Smile Holiday

初詣へ行こう！
舌も心も潤う東京観光ツアー

9:00 東京駅

（自由）

9:30 浅草観光・浅草寺

浅草のシンボル雷門をはじめ、たくさんの見どころが詰まった浅草寺は、1400年もの歴史ある寺院です。活気溢れる仲見世通りの散策も外せません。

11:00（自由・昼食）
スカイツリー

12:30（自由）
東京タワー

スカイツリーと東京タワー、作られた時代は違いますが、それぞれの良さをぜひご体感ください。

=クイズ=
スカイツリーと東京タワー、それぞれの高さは何mでしょう？

14:00（自由）
両国国技館

大相撲の聖地：両国国技館で観戦する、大迫力の相撲をお楽しみください！

19:00（解散）
東京駅

はとバス バスガイドさんオススメ

浅草名物といえば雷おこしや人形焼ですが、直径約15cmの大きなメロンパンもおすすめです。外はサクサク、中はふんわりしていて人気があります。

伝統工芸
- 江戸切子
- 江戸押絵羽子板

おみやげ
- 芋ようかん
- バナナケーキ

クイズの答え：スカイツリー 634m／東京タワー 333m

Green House

TOKYO